**谷川 「流しや（ルシヤ）」 キリシタン墓碑**

ルシヤのお墓を訪ねるには、急な丘を登り、やや雑然とした古い農家の家屋が立ち並ぶ趣深い村落の先にある小さな古い墓地まで歩いていかなくてはなりません。ルシヤの墓碑そのものは、安山岩で作られた平板型の墓石を平置きしたもので、保存状態は非常に良好です。正面には花十字（十字の各先端が三位一体を表す三枚の花弁で飾られた十字架）、背面には完全に読み取ることができる碑銘があります。碑銘には左から右に「1月17日、流しや（ルシヤ）20歳、慶長15年（1610）年」 と記されています。洗礼名は漢字一文字とひらがな二文字で書かれています。墓石の各面は浮き彫りで縁取られています。

この墓地は日野江城の跡地からわずか1キロのところにあります。日野江城は、島原を支配していたキリシタン大名・有馬晴信（1567-1612）の居城でした。石の墓をつくることができたのは上流階級の人々だけだったので、ルシヤは有馬氏と何らかの関係があったと考えられます。ルシヤが亡くなったのは、晴信が贈賄事件を起こしたことで将軍の不興を買い、斬首に処された1612年のすこし前でした。（キリスト教の教えにより、自殺である切腹は許されませんでした。）春信の後を継いだ息子の直純は、将軍の恩寵を受け続けるため、キリスト教を否定し、もともと自身の家族が改宗させた人々を迫害し始めました。

**日本のキリシタン墓碑について**

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている192基のうち、146基が長崎県にあり、その全てが17世紀初期のものです。（1581年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という３文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置きの墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。